



食用油リサイクルで石鹸づくり(工房阿列布)



■おばあちゃんと一緒に油を持参



授産施設として長年活動をしている工房阿列布は、障がいがあっても社会に貢献したい

という願いを叶えるため、職業訓練を行ったり、自立するための日常生活訓練を行っています。環境にやさしい授産品を作りたいと、身近にある食用油のリサイクル事業に取り組み、リサイクル石けんを施設内で製造し、市内スーパーなどで販売をしています。

食用油の回収の方法は2種類あり、地域に密接にかかわり取り組んでおります。

いわき市内のスーパー及び小名浜まちづくりステーションで回収を受け付けております。空きペットボトル(1.5・2L)に廃食用油を詰めて、毎週決められた日に

お持ちください。1本につき1ポイントまたは1枚のまちづくりスタンプまたはスーパーのポイントカードが交付されます。

もうひとつの方法はユックルクラブによる回収です。はじめに廃食用油を回収するグループを作っていただきます(ご近所同士や既に活動している団体・サークルなど)。回収リーダーを決め、決められた日に回収リーダーのお宅にご持参ください。ユックルクラブにもポイントカードが交付されます。現在、中央台飯野一丁目において活動が開始されております。

現在、ユックルクラブの会員を募集しております。廃食用油を、石けんとして再利用する取り組みにサークルの仲間やご近所の方と一緒に参加してみませんか。

●お問い合わせ先
いわきエソソオフィス企業組合
TEL:0246-46-2720



「いわき公園」ユニバーサルデザインアンケートを実施

前号でお知らせした「いわき公園」のユニバーサルデザイン化に向けたアンケート(聞き取り)調査を2月4日(土)5日(日)と実施しました。両日とも、晴れてはいましたが時々小雪の舞う非常に寒い日で、利用者がすくないのではと危惧しましたが、快くアンケートに応じる利用者が多く、当初の目標よりも多くのサンプル(100件)を得ることができました。

利用者については、ほとんどの方がリピーターで、中には県外から毎週来園という例もあり、新規の利用者は非常にすくないのが実情です。また、「よく管理されていて美しい」「自然がよい」「四季折々楽しめる」など、好意的な意見が多く、「今以上の整備は必要ない」との声もありました。

「いわき公園」のユニバーサルデザイン化については、階段への手すりの取り付け、案内板の追加や緊急通報装置の設置など、早急に整備の必要のある箇所も見受けられますが、利用者が急な勾配や階段など

最もマイナスと捉えがちな点を、運動への負荷、自身の気分や体調でルートを選択することにより、プラスと肯定する意見が多くありました。

障がいを持つ方、それ以外の利用者にも、鳥の声を聞き、草花や木肌に触れて自然を楽しみ、吊り橋、アスレチックや急勾配ではスリルを味わう等、多数の選択肢を提供こともUDの重要な要素であると考えます。また、車椅子の通行可能なスロープの整備等も必要ですが、例えば、電動車椅子や電動三輪車の常備貸与や、リピーター利用者の介助ボランティア制度の導入の検討なども必要であると考えます。

以上のことから、「いわき公園」のユニバーサルデザイン化に際しては、単に「ふくしま公共施設等UD指針」に忠実に整備するものではなく、「自然を楽しむワンダーネイチャーパーク」のテーマをそのままに、特性を生かした独自のものが求められると考えます。



■アンケート調査の様子



いわき明星大学ボランティアNPO活動支援ビューローの紹介

「いわき明星大学ボランティアNPO活動支援ビューロー」は、2002年9月に大学構内の人文系館にオープンし、2005年4月から、新設された地域交流館にビューロー室を移転し現在に至っております。

大学で開講しているボランティア社会論を受講する学生の約90%がボランティア活動をしてみたいと希望し、人の役にたきたいと考えていることが明らかになりました。これまでのように大学内の講義受講だけではなく、実際のボランティア活動を通じて、幅広い体験や、人々との出会いの中での多様性を学生も地域社会も求めております。

ビューローでは、市内の知的障がい者福祉施設の行事のお手伝い、小規模作業所のスポーツレクリエーションのボランティア、小学生の放課後学童クラブでの子供たちの支援、共同作業所主催音楽会の手伝い、障がい児保育協力、障がい児レスパイトボランティア、重度障がい者在宅支援介助や外出介助のボランティア、一般の児童・幼児の保育手伝い、大学祭での授産製品販売、ラジオチャリティーキャ



■UDパートナー養成講座でビューローの事例発表をする菅原さん。

ンペーン公開放送手伝い、海外交流NPO団体のイベント協力、自然環境保全NPO団体のイベント協力などの活動を行い、学生が主体となって運営をしています。地域の人々から「めいせいの学生さんがボランティアに来てくれているんですよ。

頑張ってくれています。助かります。」という声が聞かれます。

学生スタッフが交代で、火・水・金曜日(10時～17時)ビューロー室で待機し、外部から入る電話・ファックス・メールに対応しております。

●お問い合わせ先
TEL/FAX:0246-29-7744
E-mail:iwmuvnb@iwakimu.ac.jp



ふくしま型UDネットワーク形成促進事業実施報告

「ふくしまUDレター」も最終号を迎えました。ふくしま型UDネットワーク形成促進事業の一環として、UDパートナー養成講座、地域パートナーシップ連携会議、UDチェックとワークショップを開催してまいりました。一連の講座・会議を開催して見えてきた成果と問題点について触れてみたいと思います。

成果については、新たなUDのネットワークが広がったこと、いわき明星大学・福島高専との連携が図れたこと、福島県の

UDの取り組みが理解できたこと、地域のUDの取り組みが検証できたこと、ふくしまユニバーサルデザイン推進パートナーに応募があったことなどが上げられます。

また、問題点は、UDに対して興味を示す人がまだ少ない、UDに取り組んでいる方への地域・行政の後押しが少ない、行政(市町村)にUDに関する窓口がないところがある、中心市街地のUDへの取り組みの遅れなどが見えてきました。

今後、UDを地域に浸透させていくには、

講座・会議参加者への継続的な情報提供、講座・会議の継続的な開催、小中高生への教育の実施、広報・PR活動の充実、行政・大学・高専など産学官民とのさらなる連携強化など地道な活動の展開が必要と考えます。

いわきNPOセンターは、今後とも、ユニバーサルデザインを活動のひとつの柱として取り組んでいきたいと考えております。



連絡先:いわきNPOセンター
〒970-8043 いわき市中央台鹿島1-22-3
Tel.0246-29-4600 Fax.0246-46-2721
E-mail:info@iwakinpoecenter.org
URL:http://www.iwakinpoecenter.org/UD/